松本 譲 教授への献辞

総合管理学部長　中　宮　光　隆

松本譲教授は，平成12年４月に本学部に着任され，平成16年３月に定年でご退職される。この４年間，総合管理学部と大学院アドミニストレーション研究科の教育・研究の発展に大きく貢献され，偉大な足跡を残された。ここに深謝の意を表する次第である。とくに，大学院博士後期課程設置にあたって，松本教授のご協力が大きな役割を果たしたのであって，本学部・大学院が，学部創設から大学院修士課程，さらに博士後期課程へと引き続き順調に開設できたのは，多くの方々のご協力・ご尽力は言うに及ばないが，それとともに松本教授のお力添えの賜でもある。鹿児島大学法文学部を平成11年３月に定年退職された松本教授は，同年４月から㈱鹿児島総合研究所に研究参与としてご勤務されておられたが，本学からの赴任要請にご快諾いただいた次第である。

松本教授は教育に対して大いに情熱を傾けられてこられた。その証左のひとつとして，毎年数回催される大学院生の修士論文・博士論文作成のための中間的報告会（これは，今年度実施された大学基準協会による相互評価の指摘事項のなかで，学生に対する教育指導方法として高く評価された）に必ず出席され，積極的に質問をされたことが挙げられる。休日にまる１日大学院生の報告を聞くこと自体，かなり身体的・精神的ストレスを受けるが，それだけではなくアドミニストレーション研究科の特徴から，自分の専門外のテーマについても報告を聞き，質問をしなければならない。これは容易なことではない。しかし松本教授は，多種多様なテーマに関する大学院生の報告に対して，そのほぼすべてに的確かつ厳格な質問をされる。これは報告した大学院生にとって大変良い

アドバイスになる。勿論学部学生に対しても，懇切丁寧な指導を親身になって実行してくださり，好評であった。

大学運営においても４年間を通じてご活躍いただいた。今後の大学にとってひとつの大きな役割として位置づけられる地域貢献の飛躍的拡大のためにそれまでの２つの委員会を合併させて新たに設置された地域交流委員会の委員を務められ，本学の地域連携事業に推進的役割を果たされた。その他大学院の入試委員など，多くの学内委員を務めて頂いた。さらに鹿児島県や熊本県の各種審議会委員をされるなど，社会的活動においても大きく貢献された。

松本教授のご専門分野は，経営学・経営労務論である。その基本的立場は，御著『現代経営学の基礎』（文眞堂，1997年）の冒頭に明確に述べられている。すなわち，「『現代経営学』は現代の『企業経営』を研究対象とする実践科学（問題解決的指向性）であり，「批判経営学」は，その主要な理論科学（法則追求的指向性）的基礎をマルクス経済学の企業理論（≒個別資本説）に求めること」（同書，p. ii）であると主張される。また同書「第６章　個別資本説の再検討」に以下の指摘がある。すなわち，「『経営学』の研究対象は，さしあたり，その『原点』に立返って，『客観的実在』としての『企業経営』と規定されなければならず，その『企業経営』の基礎的範疇として個別資本の運動が措定されなければならないことになる」（同書，p. 111）。松本教授のご指摘を門外漢の私が解釈する失礼をお許しいただくならば，客観的事実としての企業経営の現状を正確に把握しつつ，しかもそれに留まることなく深い本質において把握するために理論を最大限援用することが必要であり，それによって初めて真の実践科学（＝問題解決）たりうる経営学が成立するとのご意見であると拝察する。松本教授のご研究成果は単に純粋学問上のものだけでなく，例えば『地域雇用開発プラン（鹿児島県瀬戸内町）』（㈶鹿児島地域雇用開発協会，2000年３月）といった現実の問題解決にむけた実践的なものも数多く見られる。

ご活躍頂いた松本教授に定年とはいえ本学部から去られることは，誠に惜しい気持ちがするが，致し方ない。松本教授には今後もお元気で充実した日々を送られることを切に念願するものである。これまでのご尽力に重ねて衷心よりお礼を申し上げたい。